



■ 概要

ITbM Galleryでは、科学と芸術の「MIX」をテーマとし、2018年8月から現在までに13回の展覧会を実施してきました。世界トップレベルの科学者が集うITbMにて芸術作品を展示することで、科学者をインスパイアし、研究の新たな視点を生むことを目指しています。

■ 展覧会例

- トルコ人芸術家のBecky Alpのmetamórhosis(変態)をテーマとした展覧会では、生物の形質的な変化を身体で表し、それを写真に収めることで、人の内面の変化を表現する作品を展示しました。(2019年2月実施)
- ドイツ人芸術家のDaniela Palandreの展覧会では、創造と破壊の象徴として「手」を用い、自然と人の調和を写真に納めた作品を発表しました。(2019年5月実施)
- 「見えるしるし/見えないしるし」と題した草野圭一と伊藤明倫の展覧会では、知的・発達障がいを持つ方々の「しるし」を、彼ら彼女らが制作したスタンプ画から発見・想像する作品を展示しました。(2019年7月実施)

■ 成果・評価

学内外の評判の高まりと共に、他機関との共同企画の機会が得られるようになりました。現在までに、名古屋学芸大学と名古屋市立大学のデザイン・芸術分野の研究者との展覧会を実施し、広島国際学院大学、筑波大学の研究者との展覧会も予定しています。また、学内では、素粒子宇宙起源研究機構との共同企画を実施しています。加えて、大学関係者だけでなく一般の方々との科学・芸術を通じた交流も増えました。海外の方々、子どもから高齢者、障がいを持つの方々など、普段の研究では出会えない人々の視点に触れる機会のある場としてITbM Galleryが機能し始めています。